

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.268 2026年4月5日発行  
巻頭言説教「わたしは、いつもあなたと共にいる」横山厚志牧師  
「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20b)

ある方との会話です。「私は死ぬことは怖くはありません。早くお迎えが来て欲しいと願っているのですが、なかなか来ないのです。特に夜が怖いのです。ずっと病室にいて、横になっている。悪いことしか考えないのです。どうしようもないことばかり考えています。ずっとこのままの状態にいるのは、とても辛いのです」と。ある方は、最近まで元気で働いていました。それが急に体調が悪くなって、倒れてしまって、救急車で運ばれて、そしたら手遅れだといわれて、どうしたらいいのか分からなかった。途方に暮れてしまいました。1人で、とても怖いのです。この方との会話は今から30年前の話です。当時、私は埼玉県の教会にいて、週に一度、東京にあるホスピスにボランティアとして参加していました。活動中に、その方とそのような話をする機会がありました。私たちはいつか必ず、自分の死を迎える時がやってくる。それが分かっても実際に、その時が来た時に、私たちは深く動揺すると思います。生身の人間ですから、死ぬことはとても怖いことです。

アンデルセン作「マッチ売りの少女」という話があります。私たちの教会学校でもこの作品の人形劇をつくって上演したことがあります。教会のホームページで見ることができます。ある年の大晦日の日でした。マッチ売りの少女は、雪の降っている日に、マッチを売るために、外に出て、通る人に声をかけて、「マッチはいかがですか」といっています。でも、人々は忙しくしていて、少女に目をとめる人はいませんでした。マッチは1つも売れません。少女は家に帰ることができないのです。マッチをすべて売らなければ、父親が怒って家に入れてくれないことは分かっていたからです。寒さの中で、少女は手足が震えていました。少女は持っていたマッチを1つ1つつけていきます。暖かいストーブや美味しい御馳走が次々に現れては、すぐに消えてしま

ます。最後に、死んだおばあちゃんが現れました。少女は嬉しそうでした。でも、大好きだったおばあちゃんもすぐに消えてしまいます。少女は持っていたマッチをすべてつけます。また、おばあちゃんが現れました。「おばあちゃん、消えないで、私と一緒に連れて行って」と叫びます。すると、少女は大好きなおばあちゃんに抱かれて天に上っていくのです。次の日の朝、少女は冷たい雪の下で死んでいたという話です。

人が死に近づいていくと、すでに死んでしまったのですが、親しかった人や大切な人を見るということをしばしば聞くことがあります。私たちには見えないのですが、その人には見えるのです。まさにその人にお迎えが来たということなのでしょう。人は死を前にして、意識もうろうとしている中で幻を見るのでしょうか。先程の話ではありませんが、その人が安心して死を迎えるために大切なことだと思います。

私たちキリスト者はどうなのでしょう。イエス・キリストは、私たちを天の国に招くために来られ、十字架についてくださり、死なれ、墓に葬られて、3日目によみがえってくださったのです。そのイエス・キリストは、私たちに次のように言ってくださいました。「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と。これを次のようにも言うことができます。「わたしは、いつもあなたと共にいる」と。私たちは自分の目で、イエス・キリストを見ることはできません。でも、神への信仰によって、イエス・キリストは私たちといつも共にいてくださるのです。元気な時も、病気の時も、そして今、死を迎えようとしている時もです。私たちはイエス・キリストの腕の中で神のみもとへいくのです。その信仰を持っていきたいと願うのです。



## 転会者の紹介

### 自己紹介

T・T兄

私は昨年、12月21日の主日礼拝の時に、転会者と成りました。

私は56年前に高校卒業の春に、日本ナザレン教団（プロテスタント・キリスト教団）の中村伝道所で洗礼をさせて頂きました。主日礼拝に皆勤で、100回出席したのちの受洗でした。神様からの恵でした。

以後、大学入学したところ、5月末に実父が胆道癌で三ヶ月の命と宣告されまして、三ヶ月後に亡くなりました。大学ではとにかく勉強に励み、お陰様で学部主席卒業後（株）SK（医薬総合商社）に入社・I市営業所で寮生活をしました。4年後に縁有りまして、（株）Tに入社。後に仲間と処方箋調剤薬局を起こしました。業務は順調でしたが、処方先の医師が不慮の死を遂げられ閉店。50才から私は医薬品登録販売者（国家資格）であったので、ドラッグストアの全国2800店余を有するTDの愛知県内の諸店舗（26店）で薬相談を続けてきました。かつては寮生活であったり、国内4支店で転勤を続けたり、ドラッグでは（土）（日）は勤務が多かったりで、ずっと教会の主日礼拝は満足にできませんでした。

出来る限りで、聖書協会、日本バプテスト教会、名東区・一麦教会等々に行っていました。

お陰様で子供も皆成人して家庭を持っています。ドラッグ勤務も1年前に退職となり、一昨年9月後、御縁有りまして主日礼拝参加を重ね横山牧師先生のお導きで、今回瀬戸永泉教会へ展開させて頂きました次第です。どうぞ皆様、よろしく願い申し上げます。



I長老 T兄 小椋牧師

## イースターの思い出

会報永泉 「イースターの思い出」

Y・M姉

主イエスのご復活おめでとうございます！私が12歳の時、初めてイースターというキリスト教の大切なお祝いを知ったのは1971年4月、当時父の任地タイのバンコクでした。自宅階下に住むアメリカ人ファミリーは日曜日には教会へ行っていたようでした。日曜日の午後、共有の庭やプールサイドなどに、とてもカラフルな卵を米兵だったお父さんが秘かに隠していました。

（一家はベトナム戦争最中でタイに駐留していました。）いつも一緒に遊んでいた息子さんと私達姉妹に、「レッツ・エッグハント！」と声を掛けられ、大喜びで夢中になって探し見つけると「ハッピー・イースター！」と皆なで言い合って喜んだ楽しい思い出です。しかし、この時は未だ私には「エッグ・ハント」の本当の意味は全く分かりませんでした。

その後、私は高校入学で日本に帰国し寮生活と同時に、日曜日には教会に行くように勧められ、日キ教団名古屋北教会の礼拝に出席することになりました。この時から教会学校での礼拝、大人の礼拝で牧師や教会学校の先生が語られる聖書のみ言葉と毎年必ず教会が守っているクリスマス、イースター、ペンテコステの行事を通して、少しずつ主イエスのご復活の本当の意味を教えていただき、知ることとなりました。教会で子供たちと楽しくイースターエッグを作る度に私がバンコクで「ハッピー・イースター！」と共に喜びのエッグ・ハントをした米兵のお父さんは、あの時はいつ戦場へ派遣されるか分からない不安を持ちつつも、私達子供達にイースターの喜びと恵みを分かち合って幸せな想いを教えてくれたことに感謝とファミリーの幸せを願います。

今も世界中で起きている紛争や飢餓、さまざまな差別、人知れず苦しみを抱いて孤独の中にいる人々等々、人間の罪と共にこの地上での悲しみや苦難を全て御存知の神様。大いなる深い慈愛によって全ての人の罪の赦しと死を越えた新しい命の希望を信じる神様への信仰を持って、これからも感謝しつつ、喜び恐れずに歩んで行きたいと願っています。「あなたがたに平和があるように」（ヨハネによる福音書20章19節）



## 長老の証し

CBC ラジオ放送「キリストへの時間」から

M・N長老

1月4日11日の放送を担当させていただきました。多くの方に早朝からご視聴いただき感謝申し上げます。しかし聴き逃された方からのご要望もあり、会報「永泉」に4回に渡り掲載させていただくことになりました。

放送内容を分割するには不都合もありますが、よろしければ継続ご購入ください。

### 第一回『たゆまず祈る』

ローマの信徒への手紙 12章 12節

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」

2026年を迎えて皆様はどのような祈りを捧げられたでしょうか。何を信仰しているかに関わらず、「祈ること」に無縁な人は居ないと思います。しかし祈りは何方に向けて捧げているのでしょうか？新約聖書使徒言行録17章で伝道者パウロはアテネに滞在していた時、人々が信仰に熱くいろいろな神を拝み、中には「知られざる神」と刻まれた祭壇さえ見つけたと言っています。神々の国という言葉がある様に日本人も古くから八百万の神への信仰をもつ民族と言われるから、当時のアテネの人とも通じ合うところがあるのかもしれない。私も幼いころは神社に行けば手を打ち、仏壇の前では手を合わせる、誰に向けて祈っているのか分からないままこれが祈りというものかと思っていました。しかしキリスト教に出会い私の祈りの対象は万物の創造主である方と知りました。祈りは神様への賛美や感謝、懺悔、他者のための取り成しなど心のままを深く広く対話として赦されていると知りました。その時から神様が親しい方となり、祈ることはイエス・キリストを通した神との対話の時間となりました。自分のことだけではなく、身近な人のことや出会ったこともない世界中の人や出来事を考え祈ることが出来るのです。

長年私はキリスト教主義の幼稚園に勤め、子ども達の素直な祈りに触れてきました。

「愛ちゃんが病気で休みでした。早く治してください」「今日は大好きな唐揚げが食べられてありがとうございます」「友だちの悪口を言っていやな気持ちになりました。もう言いません」等々、感謝やごめんなさいを子ども達は神様との会話のように祈っていました。

★次号に続く

## 報告

一天白伝道所奏楽奉仕一

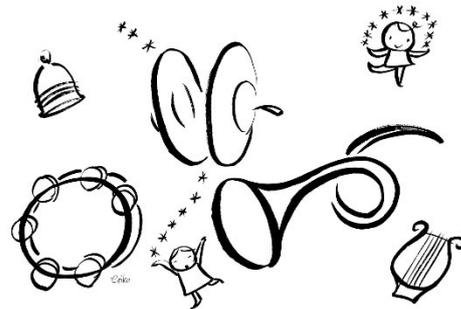
K・Y長老

2023年度冬、愛知西地区音楽委員会から奏楽者についてのアンケートがありました。オルガニストの会で相談、長老会の承認を経て回答。後日アンケートの結果より、既にいくつかの教会で奏楽者の派遣が行われている事を知りました。当時は新規オルガン導入で奏楽について新たに考えていました。

派遣は、考えてもいなかった奏楽について的一面でした。「私たちの技術で大丈夫か？」と不安もありました。ただどの奏楽者も、礼拝をする者として礼拝に集い、既に奏楽していることから、心も身体が前に押し込まれました。「他の奉仕もあり1年に一人が1回位の奉仕で受け入れて頂けるのか？」と思っていた所、天白伝道所から連絡を頂きました。

住宅街の中にあつて保育園を併設。以前は保育園も施設として使われていた一室に十字架・講壇・奏楽用のエレクトーン・会衆用の折り畳み椅子のしつらえ。いつでも礼拝出来ると備えられています。

礼拝出席はご高齢の信徒の方、保育園の関係の方、牧師先生ご一家。(1月は牧師ご一家だけでした)通常はヒムプレイヤーでの礼拝。讃美の声のボリュームありませんが、整えられて礼拝です。奏楽応援のつもりが、讃美の在り方を考える恵みのときとなっています。いつでも、どこでも神様の御名をほめたえる、喜びと幸いの実現です。2025年1月より、奇数月の第3日曜日に伺っています。今年度も行かせて頂きます。お祈りください。



永泉クワイア

I・A長老

「永泉クワイア」と名称が決まったのは、いつ頃だったのでしょうか。T牧師が牧会をされ、牧師婦人のT・M姉がみえた時です。「皆で讃美の練習をしましょう。」とM姉の指導のもと土曜日に練習していました。現在は月1回指導をして頂いています。できる限り礼拝後に集まり、短い時間ですが共に声を合わせる事の喜びを共有させて頂いています。

永泉クワイアが始まって今日までを振り返ると、コロナの時期もあり、集まって声を出すことがはばかられ、クリスマスのキャロリングもできな

ったことを思い出します。

昨年のクリスマスでは、「もみの木」が歌いたいと、本番にむけて練習を始めたのが6月、イースターが終わってすぐでした。もうクリスマスの歌？と言いつつも礼拝後の30分程度の練習なので十分な時間ではありませんでしたが、何とか形になりクリスマスの祝会で発表することができました。

その日の集まる人数によって響きは変わりますが、礼拝堂が皆の声で一つの響きに包まれたときは、皆の顔にも笑顔がこぼれます。

1人ひとりの声は小さくても、神様が1人ひとりに備えてくださった楽器を用いて、皆で一つの音楽を作り出すクワイアの楽しみはつきません。皆で神様を賛美する喜びを味わいながら、これからも歌声を合わせ、礼拝堂が讃美で包まれるように、クワイアが率先して歌っていきたいと思います。

## 教会懇談会

## N・A長老

瀬戸永泉教会では、今年度は「葬儀について」をテーマに学びを行いました。第1回目は2025年7月27日に、第2回目は2026年1月25日に教会懇談会を行いました。横山牧師から、第1回目は「キリスト教の葬儀」について、第2回目は「キリスト教における死の聖書的理解」についてお話をいただきました。

第2回目は、講義の後、3つのグループに分かれて、食事を共にしながらグループワークを行いました。聖書の解釈を深めたグループもあり、家族や自分自身の葬儀について、どんな思いを持っているか、どんな準備をしているか、話し合ったグループもあり、有意義な時間となりました。

近年は、教会建築や附属設備についての話し合いが中心になっていた懇談会ですが、葬儀の方法が分からない、心配だという声に応える形で今年度はテーマを設けました。結果として、すっかり疑問が解消できたとははいかなかったかもしれませんが、普段の会話では分からなかった、それぞれの信仰の形を聴き合うことができ、学びと共に親睦を深めることができたと感じました。

一言一句正確ではありませんが、「葬儀は最大の伝道のチャンスである」という趣旨の発言をされたかたがありました。葬儀の時にこそ、一人一人の生きてこられた道、信仰の歩みが、残された家族や友人に伝えられることを祈ります。また、来年度もこうした信徒の交わりのときを大切にしていきたいと思えます。



## 【今後の予定】

- ・ 4月5日(日)  
10:30~  
イースター礼拝  
礼拝後、祝会
- ・ 4月19日(日)  
礼拝後、教会総会
- ・ 4月25日(土)  
13:30~15:00  
学童向けイースター祝会
- ・ 5月24日(日)  
10:30~  
聖霊降臨日礼拝

＝編集後記＝

イースター、おめでとうございます。新しい年度が始まりました。今回は新会員をお迎えできご紹介できました。また、M長老のラジオメッセージの連載が始まりました。ご期待ください。今回も、原稿をお願いしました方々、ありがとうございました。

N・A長老

